

付録

子どものパブコメワークショップ 意見一覧

子どものパブコメワークショップ

「福井市こどもみらい計画へ 私たちの声を届けよう！」

(2024年12月26日開催@AOSSA)

ワークショップファシリテーター養成講座

(2024年12月21日開催@福井県教育センター)

認定特定非営利法人福井県子どもNPOセンター

福井大学国際地域学部 粟原研究室

【A班】 子どもの生きる力を伸ばす学校教育

参加者：小学生 3名

●学校は好き？嫌い？

→3人とも嫌い

●学校の嫌なところ、変えてほしいところ

<登校について>

- ・8時登校がいい（集団登校がいや）
- ・早起きがいや
- ・学校まで行くのがだるい
- ・リュックがいい
- ・自転車登校がいい
- ・集団登校や下校を個人で登校、下校したい
- ・長い休みに入るとき、大荷物を持っているとき学校から遠いから大変

<決まり、役割について>

- ・朝の会のスピーチがいらない
 - ・全校朝礼の生徒指導を無くして欲しい
 - ・全校朝礼を無くして欲しい
 - ・掃除するのがめんどくさい
 - ・掃除があるのがいや
 - ・せめて、自分の教室の掃除だけがいい
 - ・当番だと黒板を消さなきゃいけないのがいや（休み時間が少なくなる）
 - ・急いでいるときは走りたい
 - ・帰りの会のときにゴミを5個拾うのがめんどくさい
- 掃除をしたあとだからゴミがあまりない
- ・帰りの会が遅くなつて帰るのが遅くなる
 - ・学校でもおかしが食べたい

<給食について>

- ・お弁当がいい
- ・前の給食センターがいい
- ・給食の量が多い
- ・給食がおいしくない
- ・給食が調味料だけでいいから自然のものを使って欲しい

<授業について>

- ・マラソン大会いらない
 - ・縄跳び大会いらない
- 授業だけでいい、大会にしなくてもいい
- ・体育の最初に5周走らされるのがいや
 - ・校外学習や修学旅行をもっと増やしてほしい
 - ・習字の授業を無くして欲しい
 - ・好きな科目を選べるようにしてほしい
 - ・宿題を減らしてほしい
 - ・教科書いらない（タブレットでいい）
 - ・宿題がとにかく多い
 - ・連絡帳に書いていない宿題を途中で出されるのがいや
 - ・授業中に宿題をやらせてほしい
 - ・オンラインでも授業に参加できるようにしてほしい
- 不登校の人たちも授業を受けられるように

●どう変えるとよいか

<登校方法、勉強について>

- ・集団登校→大人が旗持ちとかしてくれるからいらない
 - ・寄り道OK→暑い日に水筒が空でも飲み物を買うことができない
 - ・扇風機、カイロをOKにしてほしい（昔と違う気候だから）
 - ・みんなが自転車で登校→自転車をどこかの倉庫に置く
 - ・大荷物、宿題が多い→タブレットにすると軽くなる
 - ・自転車登校→早起きしなくていい、重い荷物もかごに入れることができる
 - ・タブレットで宿題ができるようにしてほしい
- 家に持ち帰ることができる
- 荷物が軽くなる
- 楽しく宿題ができる
- ・GPSを持たせる→登校が集団でなくても安全になる
 - ・スクールバスが欲しい
- スクールバスは集団登校と一緒に寄り道できないけれど登下校が楽になるから

⇒ICTで解決する！！

<給食について>

- ・週1でもいいからお弁当にしておかしも少しなら持ってきててもいいようにしてほしい
- ・給食を自分で作る→料理する能力が上がる

●今ままでもいいところ、好きなところ

- ・クラブ活動があるところ
- ・授業中に宿題をやらせてくれること
- ・5時間授業がたまにあるところ
- ・週1で宿題が出ないところ
- ・図書室で本を読めるところ

●まとめ

- ・時代を活かして今の学校を変えていくべき
- ・意見が通るまで先生に訴える

●補足

意見を個々に見ると、一見文句ばかり言っているように読み取られるかもしれません、実際のワークショップでは、付箋に出された意見についてその理由を聞いています。それぞれ、子どもなりに大人の努力も理解しつつ、それでも子どもにとって負担や不利益になる正当な理由をもって意見したいことがわかりました。例えば、登下校については、重いランドセルを背負って決められた時間までに集合場所に行くために早起きする必要性について、自宅から直接学校の正門まで決められた時間に到着するように出発できればもう少し、朝はゆっくりできるなど、自分の裁量で決められることについて、理由の説明がなされないままにルールが決められていることに不満を持っているようです。旗持ち当番の保護者や地域の見守り隊がいるのにわざわざ安全のためにという理由で集団登校にする必要があるのか、GPAもあるこの時代にわざわざ集団下校を強いる必要があるのか、子どもなりに疑問を持っています。

【B班】 家族及び地域における豊かな心と健やかな体の育成

参加者:小学生2名、高校生1名

●体験したこと

- ・地域のイベントを手伝っている（屋内の縁日やスマートボールなど）
- ・研修施設（自然の家など）は安く、経験を積むことができて良い
- ・研修やイベントなどに参加したくても車（親の送迎）がないと参加することができない
- ・子どもたちが子どもたちを呼んでイベントをした
- ・福井大学祭のポケカ大会が楽しかった
- ・イベントは一回やると楽しいけど一回目のハードルが高い
- ・親のすすめで始めた水泳だが、サッカーよりも自由で楽しい
- ・自分の持っていないゲームをしている友達には仲間に入りづらいので、同じゲームを持っている人達とつるんでいる
- ・学校では変人と呼ばれるけど、学校外にコミュニティ（ジュニアリーダーなど）があるから大丈夫
- ・イベントのスプーン作りでナイフの使い方を学ぶ（危険回避の方法を学ぶ）

●要望

- ・公園に街灯をつけてほしい
- ・公園にWi-Fiを繋げてほしい（家族で遊べないとき公園で友達とゲームをしたい）
- ・空調システムが壊れている少年自然の家がある
- ・活動場所がと多い（研修施設など）ので交通の便を良くしてほしい
- ・大谷グローブがもっとほしい
- ・ポケカのデュエルスペースを校区内に作ってほしい
- ・地域の中では自分の地域の良い所は分かりづらいので周りに評価される体験をしたい
- ・可能性を伸ばすようにしてほしい

●まとめ

- ・なんでもチャレンジすることが大切
- ・流行りをからめないと人が集まらない
- ・自由なことをしたほうが体が元気になる
- ・自分の得意なことを見つける
- ・ほめられる経験をして社会に影響を与えられる→自信につながる

【C班】 将来をみすえた自主性・自立性の育成

参加者：小学生1名、中学生1名

●将来の夢

- ・プロ野球選手
- ・美術系の職業（モノづくりなど）
- ・裕福な生活を送る

●夢のきっかけ

- ・テレビで見て
- ・職業体験で経験をして
- ・性格診断の結果を参考にして

●感じていること

- ・なりたい職業になるために必要なことが分からぬ
- ・職業体験でも体験はできても働いている人の話をじっくり聞く時間がなかった
- ・学校見学に行ったけど、普段の生活や校則など細かいところまで知ることができなかつた

●問題・課題

○自分たちが欲しい情報が足りていない・届いていない

- ・自分で情報を集められる環境を作つてほしい
- ・いつでもどこでもなんでも身に行ける、アクセスできるようにしてほしい（受験の際の学校見学など）

○職業選択にジェンダーバイアスがある

- ・個性を大切にする雰囲気作り
- ・イメージをフラットにするために男女とも紹介するパンフレットを作成しほしい（夢への招待状は男女どちらかしか紹介されていない）

【D班】 子どもの居場所づくり

参加者：中学生1名、高校生1名

●自分らしくいられる「居場所」とは？イメージでも可

- ・自分を認めてくれる人がいる場所
- ・少人数の同じ夢を持っている人が集まる場所
- ・家族以外の人が集まる場所
- ・ゲームの世界

●挙げられたイメージに合った「居場所」は今ある？

あまりない

●放課後に、どのような場所だったらいきたい「居場所」になる？

- ・誰の許可もなくやりたいことを自由にできる
- ・否定せずに匿名で話を聞いてくれる（→理由：本名をさらしたくない、知り合いよりも知り合いでない人のほうが話せることもあるから。）
- ・完全に区切られた自分だけの空間がある（→理由：「人がいる」ということ自体が気になってしまふから）自習室でも完全には区切られていないことがある
- ・同じ境遇にいた、いる人達が集まって互いに意見を言い合える（自分が体験したことを共有したい）
- ・イメージを実現、表現できる
- ・自分の夢を持つ、叶えることができる
- ・安心して人に会える

●放課後にどんなこと（遊び）がしたい？

- ・友達みんなと何か（鬼ごっこ、ドッヂボール、雪遊び、ゲーム、節分やお菓子作りなどのイベント）がしたい
- ・広い場所を使って体を動かしたい

【放課後の児童館について】

- ・家より児童館のほうが楽しかった（→理由：家庭では自分の言いたいことが言いにくい子どももいる。学校の教室でもよく思われていない。）

⇒学校でも家庭でもない“第三の場所”の必要性が見られた

- ・自分の好きなことができていた
- ・児童によって意見を（仕方なく）通す、通さないを判断している先生がいた。（特に発言力がある子ややんちゃな子に先生が引っ張られて、そうでない子の意見が通りづらい環境）

⇒意見が分かれたときに、その子たちと対立してしまうこともあった

【放課後の公園について】

- ・公園に遊べる遊具がなくなってきた（→理由：危険だからという理由で撤去されてしまうから。）
- ⇒公園に子どもたちがあまり集まらなくなってきた
- ・広い場所で友達のみんなと遊びたい

【E班】 子どもの権利を保障する体制整備

参加者:小学生 1名、中学生 1名

●子どもの権利条約第 31 条

- ・「休み、遊ぶ権利」
- ・友達との時間が作れない
- ・習い事が忙しい

●子どもの権利条約第 42 条

「条約の広報」

- ・子どもの権利条約が広まっていないことが課題
- ・社会の授業で少し聞いたことがある程度
- ・人権について勉強しても子どもの権利の内容までは知らなかった

●子どもの権利条約が広まっていないことで起こること

- ・何かあったら一人で悩んでしまう
- ・このことは、子どもの権利条約第 36 条のあらゆる搾取からの保護（幸福追求権）の侵害につながっているのではないか

●第 36 条幸福追求権について

- ・幸せって何だろう
- ・居場所づくり、好きなものを見つけるには

↓

- ・学校にコミュニティールームをつくる。（人とのつながり、世界を広げる）
- ・子どもが流行の情報に簡単にアクセスできるようにする
- ・教育方針を変える

まとめ

- ・子どもの権利条約を広めることが大事（子ども、大人と共に）
- ・今日の話し合いのような空間や時間が大切

【F班】 子どもの安全を守るために

参加者：高校生 2名

●怖かったエピソード

- ・暗いところに街灯がない
- ・不審者が多い
- ・動物（サル）

●対策

- ・情報共有（子どもでもアクセスできる、わかりやすい）
- ・環境整備
- ・サル対策講座

●発見

- ・身近なところに恐怖がある
- ・現状、しっかりと対策がされている

まとめ

現状行われている対策を子ども自身が知り、さらに充実させる必要がある。